

# 生まれてくる赤ちゃんのためにも 防ごう！大人の風しん

まずは風しんの抗体検査(採血)を受けましょう

## 1 風しんとは 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症

風しんは感染力が強く、1人の患者から免疫がない5~7人に感染させる可能性があり(インフルエンザでは1~2人)、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあり決して軽視はできない疾患でもあります。風しんは、風しんウイルスを含んだ飛まつ(咳やくしゃみ、会話、発語などで飛び散るしぶき)を吸い込んで感染します。発症予防には風しんのワクチン接種が極めて有効です。

**大人の患者さんが増えています** 1962~1989年生まれの男性、1979~1989年生まれの女性は風しんへの免疫(抗体)を持たない方の割合が他の年齢より高いため、特に注意が必要です。

## 2 先天性風しん症候群とは 風しんウイルスの胎内感染によって先天異常を起こす感染症

免疫のない女性が妊娠初期に風しんにかかると、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。CRSの3大症状は先天性心疾患、難聴、白内障です。このうち、先天性心疾患と白内障は妊娠初期3ヵ月以内の母親の感染で発生しますが、難聴は初期3ヵ月のみならず、次の3ヵ月の感染でも出現する症状です。しかも、高度難聴であることが多いとされています。3大症状以外の症状には、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたっています。

### CRSの赤ちゃんに見られる主な症状

#### 先天性の眼の病気

- ・白内障(しょう) 黒目が白く濁って目が見えにくい
  - ・網膜症 眼の奥の膜に異常がみられる
  - ・緑内障(しょう) 眼の中の圧が高くなる
- など

#### 血小板減少性紫斑病

- 血小板という血液の成分が少なくなり、紫色の斑点が皮膚にできる
- など

#### 先天性の耳の病気

- ・難聴 耳が聞こえにくい

#### 先天性の心臓の病気

- ・動脈管開存症 生まれたら閉じるはずの動脈管という管が開いたままになり心臓や肺に負担がかかる
- など

#### 低出生体重

- 小さく生まれる

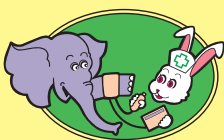
先天性風しん症候群を持った赤ちゃんがすべての障がいを持つとは限らず、これらの障がいのうちの1つか2つのみを持つ場合もあり、気付かれるまでに時間がかかることもあります。妊娠2ヵ月頃までは目、心臓、耳のすべてに症状を持つことが多いですが、それを過ぎると難聴と網膜症のみを持つことが多くなります。妊娠20週以降では「異常なし」が多いと報告されています。

## 妊娠を希望する方やその家族の方は抗体検査を受けましょう

これから妊娠を希望する女性やその家族の方で、風しんワクチンを受けたことがあるか、または風しんにかかったことがあるかどうか不明な方は、採血だけで結果がわかる、風しん抗体検査をお勧めします。結果に応じて、医師と相談のうえ、ワクチンの接種をご検討ください。

●●●● お問い合わせ・お申し込みはメディックスにご相談ください ●●●●

検査名 風しん抗体検査 料金 2,100円(税込)



一般財団法人 広島県集団検診協会

メディックス広島健診センター

広島市中区大手町1丁目5番17号 TEL 082-248-4115

メディックス広島

検索